

東京五輪ハンドボール女子1次リーグのモンテネグロ戦でシュートを決める日本代表の大山真奈＝7月27日、国立代々木競技場



ハンド大山海外移籍

東京五輪に出場したハンドボール女子日本代表の大山真奈(28)＝高松商高出、写真Ⅱが日本リーグの北国銀行を退団し、ハンガリーのプロチームに移籍することが決まった。契約期間は2年。帰省中の大山は11日、県内で取材に応じ、「楽しみ



ハンガリーに2年契約

と不安があるが、背中を押してくれた人たちに、しっかりと成長した姿を見せられるようにしたい」と意気込みを語った。

大山は、東京五輪が1年延期される前から海外挑戦の意志はあったそうだが、新型コロナウイルスで2020年シーズンに北国銀行の主将を任されたこともあって、移籍を先延ばししていた。

五輪で引退という選り手は、「自分の生きる道を探しながらやってきた大時代の恩師、楠本繁生(監督)から「お前は今が旬だ」と思う。チャンスがあるときに「行け」と背中を押され、決断したという。

移籍先は東京五輪代表の石立真悠子(三重バイオレットアイリス)らが過去に所属していた「フスエールパール」。シーズンは9月4日から始まる予定。

世界トップ級の選手としての道を磨く舞台に、大

きな経験を積むことになる。自分にとってプラスになると感じている」

「一度休みたい」とは思ったが、ここで休んだら『もういいか』と思ってしまう気もした。ばたばたと海外に行ってしまった方が頑張れるの

ではないか」

「2024年のパリ五輪を見据えた決断か。」「ハンドボールだけではなく、言語を含めいろいろなことを学べること。将来何をやるにしても、この経験はすごく生きると思っ

「大きな経験に」

一問一答

海外移籍する大山は東京五輪で感じたことやハンガリーでの単身武者修行への思いを語った。主なやりとりは次の通り。

「東京五輪1次リーグ敗退に感じたことは、

「日本選手も世界で戦える部分はあると感じたが、一生懸命やるだけでは勝てないと思った。海外選手は大事な局面での勝負の仕方がうまい。決めるべきときにきっちりシュートを決めてきた」

「日本の反省点は、

「勝負どころで連係やシュートのミスが出てしまい、相手に流れを替えていかれたところ。韓国戦で特にそう感じた。残り数分になる前に、もう少し頑張らなくていいわい

うもある」

「日本が成長するために求められることは、

「もっと(国際舞台での)経験を増やしていくことが必要。海外チームとの実戦の中で成長する部分はたくさんある」

「それが自身の海外移籍の理由に、

「海外選手のフィジカルの強さに慣れるという意味で、大きな経験になる。自分にとってプラスになると感じている」

「五輪を終えればかりだが、

「一度休みたい」とは思ったが、ここで休んだら『もういいか』と思ってしまう気もした。ばたばたと海外に行ってしまった方が頑張れるの